

サワラ卓越年級群発生か？

海洋生産技術担当
吉岡拓也
マリンサイエンスゾーン推進幹兼水産研究課長
上田 幸男

Keyword ; サワラ , サゴシ , 卓越年級群

小型のサワラが小型底びき網に大量に入網

鳴門市北灘沿岸の播磨灘で長年サワラの流し刺網と小型底びき網を営む漁業者から、今年は異常にサワラの仔が多いという情報がありました。詳しく聞いたところ、7月上旬から北灘漁協前の水深 20 ~ 30m の海域で小型底びき網に体長 10cm 程度のサワラが曳網当たり数十尾から 100 尾程度入網するという話を聞きました。



写真 1 . 2018年8月3日に播磨灘鳴門市北灘沿岸で操業する小型底びき網に入網した尾叉長20~30cmのサワラ当歳魚(スケールは20cm)。

昭和 50 ~ 60 年頃にサワラが大量に漁獲されていた時代にも、漁獲が増える数年前から小型底びき網に大量の小型サワラが入網したという話を聞いていたので、30 年ぶりに再びサワラの卓越年級群が発生したのではないかと直観的に思いました。

まずは、この状況を記録しておくことが重要で 2018 年 8 月 3 日に漁業者訪ね、サワラの大きさと入網状況を聞き取り、漁獲物を調べさせていただきました。現在のところ、「売り物にならないので投棄している」、「成長は著しく早い」と話されていました。その日の 2 番網のサワラ 15 尾を提供いただき、計測したところ尾叉長 20 ~ 30cm、体重 58 ~ 222g でした(写真 1)。このサイズになると親と同様の魚食性を示す鋭い歯になっています(写真 2)。その日に使用していた底びき網は小エビ類漁獲用の網で海底から 1m ほど立ち上がっているそうです。作業時間帯は夜明け後です。このことから、このサイズ、この時期のサワラは底層に分布しているのかもしれませんが。今年は例年多いシログチの幼魚が少なく、サワラのほかスズキやホウボウの幼魚の発生量が多いようです。2017 年 6 月以降の黒潮蛇行から海域に水温変動が大きく、海の様子が変化していることが稚魚類の生残にも影響を及ぼしているのかもしれませんが。



写真2. 2018年8月3日に播磨灘鳴門市北灘沿岸で操業する小型底びき網に入網した尾叉長20cmのサワラ当歳魚の大きな口と鋭い歯。

2018年秋のサゴシの漁模様

播磨灘で生まれ育ったサワラ当歳魚は成長とともに秋には紀伊水道に南下します。尾叉長が 40 ~ 50cm 程度になると一部が延縄、立縄及び小型底びき網の漁獲対象になります。そこで、2018 年生まれのサワラの豊度がどの程度か調べる目的で、紀伊水道で操業する橋町漁協の延縄のサワラの体重別漁獲尾数と椿泊漁協の銘柄別漁獲量を調べてみました。

橋町漁協の体重別漁獲尾数では体重 1kg 未満のサワラは全てサゴシ銘柄に相当し、その年の春に生まれた当歳魚です。2018 年生まれ体重 1kg 未満のサワラ

の漁獲尾数は 2008 年に次いで多いものとなっています。2009, 2015 年など発生量が多い年の翌年の 2 ~ 3kg の漁獲尾数は明らかに多くなっているようです。

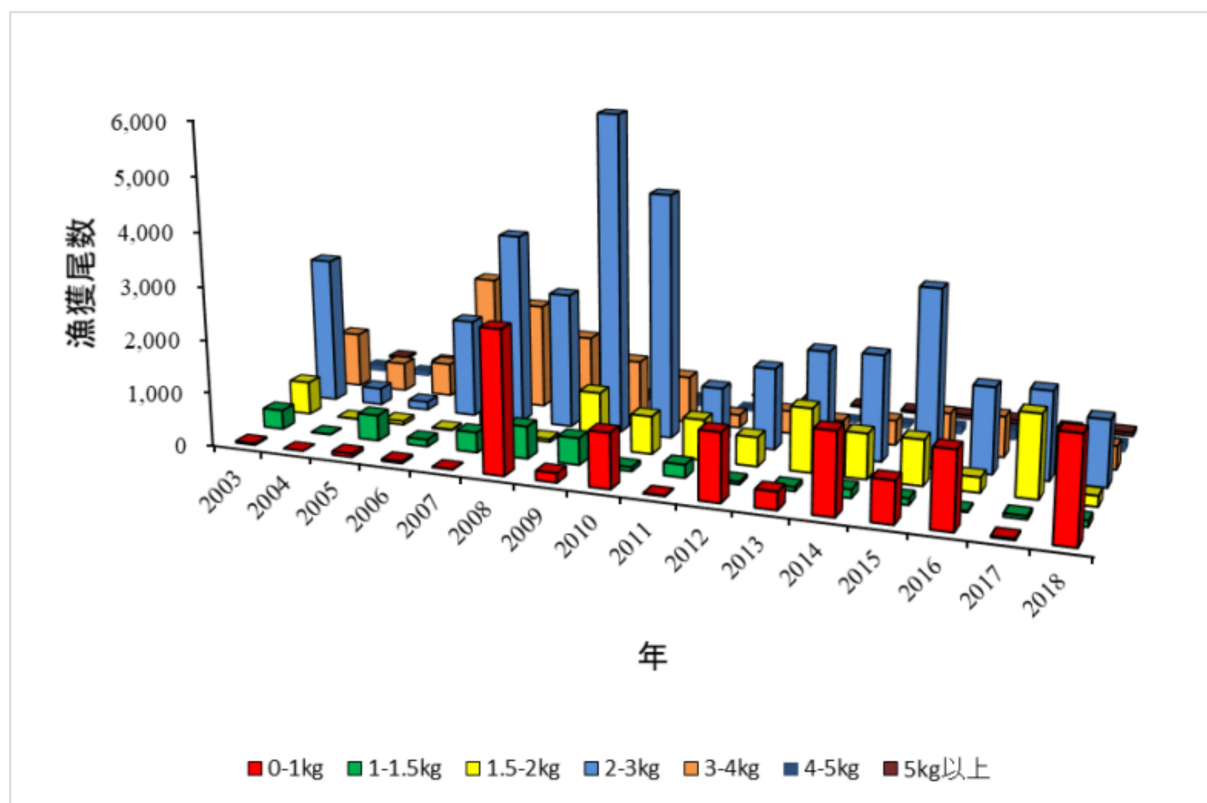


図1．紀伊水道で操業する橘町漁協の延縄漁船の9～12月の体重別漁獲尾数の経年変化。

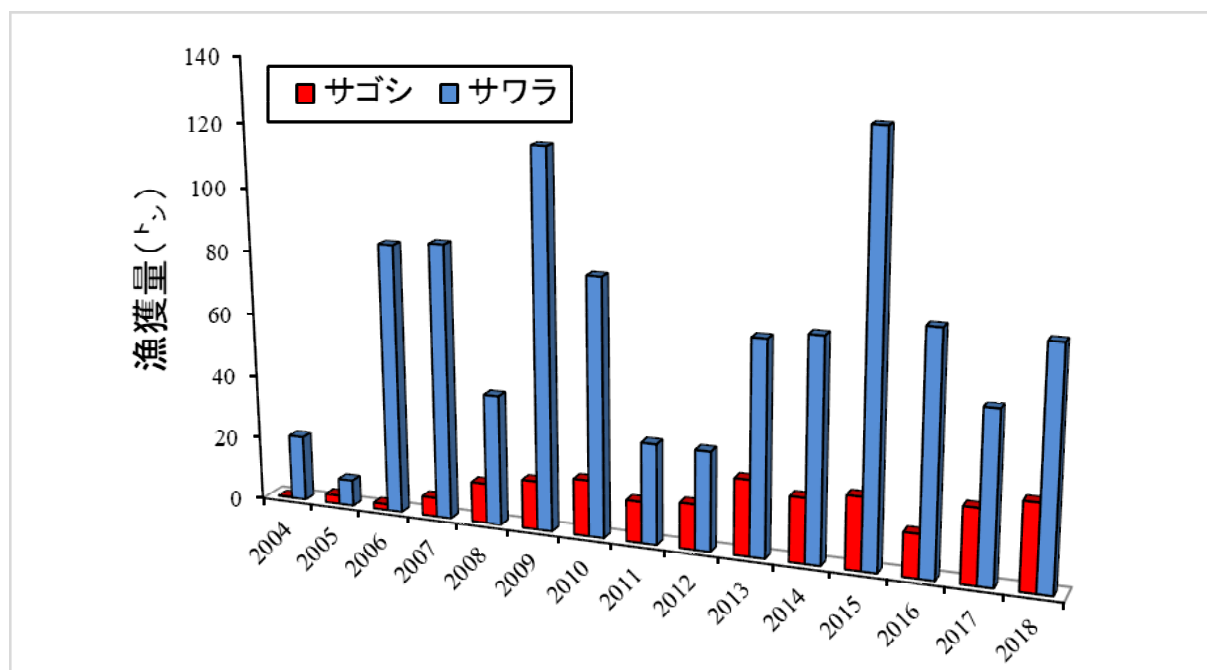


図2．紀伊水道で操業する椿泊漁協の延縄漁船の9～12月の銘柄別漁獲量の経年変化。

次に椿泊漁協のサゴシ(1.0kg 以下)とサワラ(1.0kg 以上)の漁獲量を図 2 に示しています。椿泊漁協では 2009, 2015 年のサワラの漁獲量は橘町漁協同様に明らかに多いですが, サゴシの漁獲量の増減は橘町漁協とは明らかに異なり, 2007 年以降増加傾向にあり, 2018 年生まれが過去最高になっています。同じ紀伊水道での操業であっても橘町漁協とは操業海域が異なり, 椿泊漁協の方がより価格の高い大きなサワラをターゲットにした紀伊水道南部で操業していることを反映しているのかもしれませんが。

これら両漁協の過去の漁獲データを踏まえれば, 2019 年秋冬の延縄及び 2020 年春の流し刺網のサワラの漁獲量は増加すると予想されます。著者らが水揚げされた冬季のサゴシを見る限り, やや小さく細いような気がします。密度効果のせいでしょうか。2018 年生まれのサワラが「卓越年級群かどうか」その動向を注視したいと思っています。